

宝光社

1058年に建立した宝光社は、戸隠五社の現存する社殿の中では最も古く、1861年に作られたものになります。宝光社の社殿は複雑な木彫りで飾られており、壁には十二支の動物の像も彫られています。

宝光社の社殿の正面中央には、「天岩戸の伝説」を描いた伝統的な踊りである、神楽の舞台があります。この伝説によると、太陽の女神である天照大神は、弟の素戔鳴尊の度重なる非行に怒り洞窟に隠れ、世界を闇の中に落としたのです。そして女神の天鈿女命が踊った面白い踊りは他の神々の笑いを誘い、天照大神が岩の扉を開けて洞窟から少し顔を出すと、神の天手力男神が岩を投げ捨て、再び世界が光を取り戻したのです。そして天手力男神が投げた岩がこの場所に落ち、戸隠の山になったとされているのです。

宝光社の右側にある大きな木造の倉庫には、2つの神輿が保管されています。これらの神輿の1つは6年ごとに式年大祭と呼ばれる祭りで、中社まで運ばれます。この祭りは、宝光社で祀られている天表春命と、中社に祀られている天表春命の父が会おう儀式とされているのです。